

瀬田川プランクトン調査結果速報

～第10報～

滋賀県立衛生環境センター
琵琶湖水質担当
平成15年6月9日

1. 最も数が多かった種類（優占種）

植物プランクトン第1優占種



Uroglena americana
(ウログレナ)
黄色鞭毛藻類

楕円形の細胞が球状の寒天質の表層に規則正しく配列し、球状の群体を形成する。各細胞は不等長の2本の鞭毛を有する。

動物プランクトン第1優占種



Synchaeta oblonga
(ナガマルドロワムシ)
輪虫類

体は円錐形で足は短く、先端の爪は微小である。体長は225～345 μm。体側は縦の糸線があるのが特徴である。

コメント

植物プランクトンは、淡水赤潮の原因となるウログレナ (*Uroglena americana*) が最も多かったが、細胞数としては少なく、その群体数は2群体/mlであった。動物プランクトンは、ワムシ類のナガマルドロワムシやハネウデワムシ、甲殻類のゾウミジンコなどが多かった。

2. 見つかった主なプランクトンとその数（個体数）

(1) 動物プランクトン

第 1 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Synchaeta oblonga</i>	520

第 2 優 占 種		個体数 (個体 / l)
輪虫類	<i>Polyarthra vulgaris</i>	440

* 個体数については、プランクトンネットで採取したものを直接検鏡して計測した。

瀬田川植物プランクトン調査結果速報

滋賀県立衛生環境センター

琵琶湖水質担当

平成15年6月9日

第10報

(2) 植物プランクトン

(綱) 種 名	細胞数 (群体数)	優占種(占有率)	
		数	体積
(黄鞭) <i>Uroglena americana</i>	360		
(黄鞭) <i>Ochromonas</i> sp.	20		
(黄鞭) <i>Chrysamoeba radians</i>	10		
(黄鞭) <i>Mallomonas pseudocoronata</i>	10		
(黄鞭) <i>Mallomonas</i> sp.	10		
(珪) <i>Melosira varians</i>	20		
(珪) <i>Melosira granulata</i> var. <i>angustissima</i>	12		
(珪) <i>Cyclotella</i> sp.	20		
(珪) <i>Fragilaria crotonensis</i>	180		
(珪) <i>Asterionella formosa</i>	60		
(珪) <i>Synedra acus</i>	10		
(珪) <i>Cocconeis placentula</i> var. <i>leneata</i>	10		
(渦) <i>Peridinium berolinense</i>	30		
(渦) <i>Peridinium penardiforme</i>	10		
(褐) <i>Cryptomonas</i> sp.	80		
(褐) <i>Rhodomonas</i> sp.	100		
(緑) <i>Chlamydomonas</i> sp.	10		
(緑) <i>Micractinium pusillum</i>	40		
(緑) <i>Scenedesmus</i> sp.	40		
(緑) <i>Mougeotia</i> sp.	28		
(緑) <i>Closterium aciculare</i> var. <i>subpronum</i>	2		
(他) <i>Tetraselmis</i> sp.	110		
(藍) 藍藻綱	0	0.0	0.0
(黄) 黄緑藻綱	0	0.0	0.0
(黄鞭) 黄色鞭毛藻綱	410	35.0	8.8
(珪) 珪藻綱	312	26.6	15.7
(渦) 渦鞭毛藻綱	40	3.4	1.3
(褐) 褐色鞭毛藻綱	180	15.4	11.7
(み) みどり虫藻綱	0	0.0	0.0
(緑) 緑藻綱	120	10.2	60.1
(他) その他のプランクトン	110	9.4	2.5
総細胞数	1172	総体積 (μm^3)	1.31E+06
種類数	22		

注1) 細胞数の単位は(細胞 / ml)

ただし*印の種は群体数(群体 / ml)

注2) 優占種は が第1優占種、 が第2優占種

数字は各綱ごとの占有率(単位: %)

注3) 細胞体積は、顕微鏡観察による画像から

試験的に推定した概算値である。